

障害者支援施設 羽合ひかり園

1 基本方針

どんなに障がいが重くても、「施設から地域の中へ」を目標とし、一人ひとりの幸せを考え、その人らしい豊かな生活が送れるよう支援する。

2 利用者の状況（令和6年3月31日現在）

（1）入所者状況

（人）

利用人数		前年度末利用者数	令和5年度中の入退所状況								利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数	
区分	定員		入所人員	退所人員	退所理由別									
					地域移行		家庭復帰	施設移管	契約解除(入院等)	死亡				
				GH	アパート等									
生活介護	60	72	4	4	0	0	0	1	2	1	18,308	113.0%	72	
施設入所支援	40	38	5	2	1	0	0	1	0	0	14,457	98.8%	41	
4年度	生活介護	80	78	0	6	1	0	0	2	1	2	18,621	86.5%	72
	施設入所支援	50	45	0	7	2	0	0	2	1	2	14,945	81.9%	38

（2）障害支援区分

①生活介護

（人）

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	1	3	17	37	58
女性	0	0	0	0	3	1	10	14
計	0	0	0	1	6	18	47	72

②施設入所支援

（人）

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	0	1	6	26	33
女性	0	0	0	0	1	0	7	8
計	0	0	0	0	2	6	33	41

3 事業の実施状況

（1）利用者支援の充実

ア 行動障がい者への支援

（ア）月に1回、精神科医の往診を受けている。また、2名の利用者を対象として、NPO法人糸の職員にアドバイザーを依頼し、3か月おきに検討会を実施した。

また、当園の強度行動障がい者支援プロジェクトチームの職員をアドバイザーとして、他の寮の支援困難者についてケース検討会を実施した。

（イ）強度行動障がい者支援者養成研修は基礎4名、実践3名が受講し、専門研修にはオブザーバーとして1名が参加した他、職員3名を講師として派遣した。

また、同研修に係る国の指導者養成研修に、基礎と実践それぞれ1名ずつが受講した。

イ 重度知的障がい者の高齢化支援への充実

（ア）医療機関、特に嘱託医の協力の下、利用者の健康状態の変化について早期発見に努めた。

（イ）2か月に1回母来寮のPTを派遣してもらい、相談会を開催し、生活リハビリの方法、介護技術や福祉用具の選定についてアドバイスを受けた。

ウ 在宅の強度行動障がい者への支援

とっとり県版強度行動障がい児者先導的支援事業において、月1回開催される指導員会議と、10月以降は個別面談に延べ7回、指導者として職員を派遣した。

エ 地域貢献活動の推進

年2回湯梨浜町主催の東郷池一斉清掃に参加、また、湯梨浜町社会福祉協議会理事会に理事として、湯梨浜町虐待防止ネットワークに委員長として、湯梨浜町人権教育推進協議会、湯梨浜町自立支援協議会、鳥取県中部自立支援協議会に委員として、更に鳥取県自立支援協議会権利擁護部会にオブザーバーとして参加した。

(2) 虐待防止

ア 鳥取県等が実施する障がい者虐待防止研修に、全職員が毎年1回は受講することとしており、今年度も計画的に受講した。

イ 虐待防止チェックシートは7月に実施、虐待の芽チェックシートは各寮が2月おきに実施した。

自身の支援を振り返る機会とし、職員への注意喚起と、支援が難しい利用者のケース会を開催し、虐待防止に努めた。

ウ ストレスチェックは9月に実施し、当園の傾向について衛生委員会で報告、今後の対応を検討した。また、メンタルヘルス研修については、11月6日、事業団主催の研修に1名参加した。

(3) リスク管理と感染症予防

ア リスクマネジメント委員会は、毎月1回定期的に実施するとともに、必要に応じて緊急リスクマネジメント委員会を開催し、再発防止策を検討した。

施設の設備による利用者の事故が発生した。県、援護市町、施設で原因追及し、今後同じ事故が発生しないよう設備の危険箇所の補修やマニュアルの見直しなどを行った。

イ 8月に楓寮とかがやきで、9月には麦の穂寮となでしこ寮でクラスターが発生したが、重症化される利用者はなく、支援体制も概ね適切に対応できた。

なお、食中毒予防に関しては、当園の管理栄養士を講師として研修会を実施し、食中毒予防にも心掛けた。

(4) 経営改善

ア 施設建て替えについては、今年度、再度見積書を徴取し、事務局と協議する予定としていたが、昨年度の見積よりも建設資材等の高騰により相当上昇していることから、再度、時期等については検討を行うこととした。

現在、建替後の体制に極力近い体制となるよう、寮の再編成及び日中活動班の体制について検討中である。

イ 短期入所については、6月から利用された方が、その後も定期利用を希望されたが、8月からのコロナクラスターの発生により、利用を自粛していただいた。クラスター終息後は利用を再開された。

ウ 稼働率 [生活介護：113%、施設入所支援：99%、短期入所1%]

今年度から定員を生活介護60名、施設入所40名に減員した。4月1日時点の入所者は38名だったが、その後4月に2名、12月に1名の新規入所者を受け入れ、現在41名となり、新型コロナウイルス感染症によるクラスター発生によるかがやきの休止等の影響もあったが、目標稼働率を達成した。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
鳥取短期大学	5-6月	3人	30人
鳥取社会福祉専門学校	11月	2人	10人
計		5人	40人

(2) ボランティアの受入実績

ボランティア体験事業（湯梨浜中学校生） 1人 延4人

5 附帯事業

(1) 短期入所事業 定員 2名及び空床型

(2) 日中一時支援事業 定員 上記同様（主な受入先：琴浦町）

(3) 利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	1	6	0	0
日中一時支援事業	3	33	4	25